

さて、半年前になりますが、『物流問題研究 55 号 (2011 年冬)』の編集を終え、ようやく関係各所に機関誌を発送をしたのが 3 月 8 日、翌日はトラック運送関係の委員会に出席するため福島市に赴きました。会議の終わりが近づいた正午前に地震がありました。ホテルの会議場のシャンデリアは振り子のように大きく揺れ、思わずテーブルを押さえたことをはっきりと記憶しています。震源は三陸沖、マグニチュード 7.2 でした。その 2 日後に未曾有の被害をもたらした東日本大震災が起きました。思えば、その前兆だったのでしょうか。被災されたみなさまには、心からお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復旧・復興を願うばかりです。

阪神淡路大震災、中越地震の経験を踏まえ、救援物資輸送などのロジスティクスの重要性は認識されていたと思いますが、今回の地震は被害の大きさと広がりが甚大で、改めて多くの問題が露呈しました。全国から送られた救援物資は、県庁や市役所などの物資集積拠点に滞留したことから避難所まで届かない、輸送しようと思っても燃料不足で乗用車やトラックが動かせないなどです。さらには、サプライチェーンが浸透している自動車業界のように、部品供給がストップすれば被災地外にある完成品工場も休止に追い込まれるということを目の当たりにしました。

『物流問題研究 56 号 (2011 年夏)』では「震災とロジスティクス」を特集のテーマとしました。ロジスティクスはライフラインとして、メーカーや流通のサプライチェーン維持のインフラとして、極めて重要です。各業界や識者の方々に、実態や情報、考え方をお寄せいただき、災害時の取り組み実態や課題の整理など多様な情報を記録し残すことで、後々の参考になればと思っています。

なお、本誌の掲載論文ならびにロジスティクス産学連携プログラムのタイムリーな活動情報は、本学のホームページにも掲載いたしますので、是非お立ち寄り下さい。

(<http://www.rku.ac.jp/index.html>)

(小野)